

でんきじどうしゃ はし たいようこう ふうしゃ まち すこ  
電気自動車が走り、太陽光パネルや風車があられ、街が少しずつ  
かわっていきます。

「でもまだ、電気が全然足りてない…」

でんきじどうしゃ じゅうでん た とちゅう と  
電気自動車を充電するスポットが足りず、途中で止まってしまう  
車がちらほら…

「もっと電気をつくりたいけど、化石燃料は使いたくない。どう  
したらいいんだろう」

なや み  
悩むはるとのとなりで、ふと、ひなたがグラフを見ると、まだまだ  
おんしつこうか で りょう ほう おお  
温室効果ガスが出る量の方が多量みたいです。

「ねえ、出る量はちょっと減ったみたいだけど、吸収される量が  
ぜんぜん増えてないよ」

ひなたがグラフを見つめて言いました。

「もっと吸収される量を増やすためには、どうすればいいんだろう」

「『カーボンニュートラル』って簡単じゃないね」

もくひょう みち とお  
目標までの道のりはまだまだ遠いようです。



そこでお姉ちゃんねえが言いいました。

「バイオマス発電はつでんっていう発電方法はつでんほうほうもあるのよ。木のくずきや家庭かていから出るゴミでを燃もやした時ときにできるエネルギーはつでんで発電するの」

「えっ、でも、木きとか燃もやしたら CO2シーオーツー ふは増えるんじゃない？」

「そうよね。ここが『カーボンニュートラル』のポイントポイントなんだけど、木きを使うつかってことは、まずは木きを育てそだてることになるじゃない？」

「そうか、木きは、CO2シーオーツー きゅうしゅうを吸収きゅうしゅうしてくれる」

「森もりをつくろう！」



もり ふ はつでん み  
森が増え、バイオマス発電ができました。ひなたはグラフを見て  
い  
言いました。

で りょう きゅうしゅう りょう さ  
「あ！出る量と吸収される量の差がなくなってきてる！」

ひといき ほか  
「あと一息だね。他にできることはなんだろう？」

ねえ い  
お姉ちゃんは言いました。

しょう じゅうたく た ほうほう  
「省エネ住宅を建てるっていう方法もあるわ」

しょう じゅうたく  
「省エネ住宅…？」

き  
ひなたが聞きます。

なつ ふゆ いえ れいぼう  
「夏はすずしく、冬はあたたかい家のことよ。そうすると、冷房や

だんぼう つか  
暖房を使いすぎなくてすむの」

でんき つく かた でんき つか  
「そうか。電気の作り方だけでなく、電気をなるべく使わないで

ほうほう かんが  
すむ方法も考えたほうがいいよね」

い  
はるとがうんうんとうなずきながら言いました。



しょう じゅうたく おんしつこうか で りょう きゅうしゅう りょう  
省エネ住宅のおかげで、温室効果ガスが出る量と吸収される量の  
さ  
差はあとわずか。

すこ ほか  
「もう少しだ!」「他にできることは?」

つか でんき へ くるま つか じてんしゃ  
「使う電気を減らす…車を使わないで、自転車にするとか?」

おくじょう はたけ つく みどり ふ  
「屋上に畑を作って緑を増やすとか?」

おも かたち  
思いついたアイデアをどんどん形にしています。

まち しょくぶつ ふうき  
しばらくすると、街は植物でいっぱいになりました。空気もとても  
す ひと い い  
きれいになり、住んでいる人たちも生き生きしています。

か まち ようす たいよう ようかい とお  
さらに変わっていく街の様子を、太陽の妖怪は遠くからじっと  
み  
見つめています。



ところが、じっと見ていた太陽の妖怪が、とつぜん嵐を引き起こしました。

「えっ？あと少しのところなのに！」

ひなたとはるとは、太陽の妖怪をいまいましく思いました。

もとの世界で起こったときのように、電線にカミナリが落ちました。

「また停電する！！」はるとは叫びました。

だけど今回は太陽光パネルのおかげで電気は消えませんでした。

また、木を植えて森を作ったのおかげで土砂くずれも起きませんでした。

それをみて、ひなたとはるとは言いました。

「環境のことを考えてやったことは、こういう災害があったとき

にも、役に立つんだね」

「何かあった時に全部つながってくるんだ」





あらし あか  
嵐がやみ、明るくなってきました。3人はグラフを見上げました。  
おんしつこうか で りょう きゅうしゅう りょう おな  
温室効果ガスが出る量と吸収される量が同じになっています。  
にん かお み あ わら  
3人は顔を見合わせて笑いました。

「おめでとう。『カーボンニュートラル』を実現できたね。約束通り、  
もとの世界に返してあげよう」

たいよう ようかい い にん りょうて やさ つつ  
太陽の妖怪は、そう言って3人を両手で優しく包みました。



しばらくすると、3人を包んでいた手のひらが開き、周りが明るくなりました。夕ご飯のいい匂いがしています。

「わ！今日はシチューだね」

はるとは飛び上がってキッチンに向かいます。ひなたも急にお腹がすいてきました。

「ひなたちゃん、家まで送るわ」

お姉ちゃんが言いました。



かえ みち  
帰り道、はるとがつぶやきました。

「うちも太陽光パネルにしたいなあ」

ひなたも言いました。

「うちの車も、電気自動車にすればいいのにね」

お姉ちゃんが言いました。

「あはは、そうだね。ただお金もかかるし、簡単にはいかないよね」

「だよねえ。ぼくのお小遣いじゃぜんぜん足りないよ」

「太陽光パネルも再生可能エネルギーの発電所も、ゲームだった

から自由にどんどん増やせたんだけどなあ」

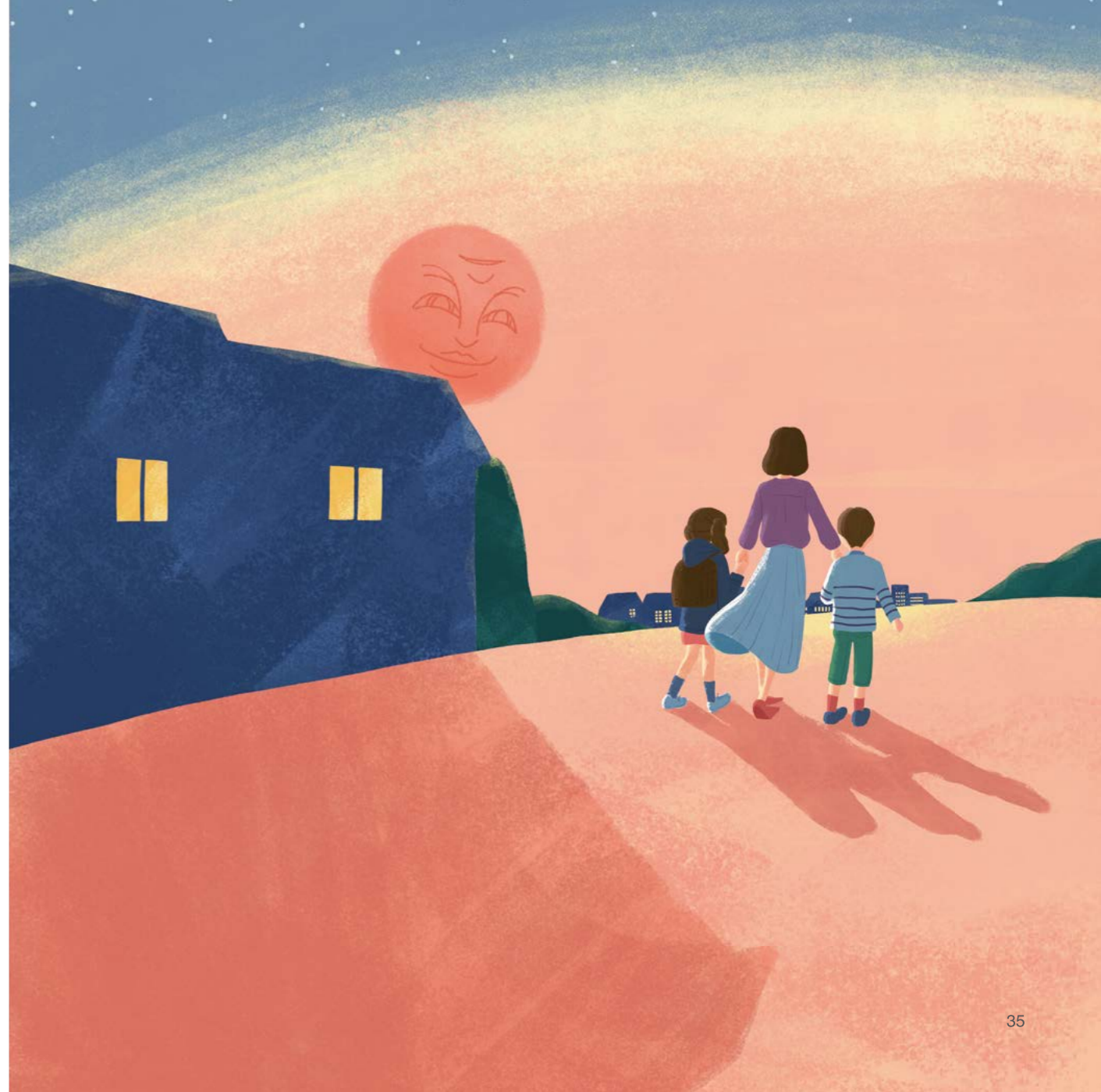
「そうね。現実ではもっと多くの人に関わって、たくさん話し合い  
をして、時間がすごくかかるよね。でもね、今の私たちにできる  
こともいっぱいあるでしょ？電気を付けっぱなしにしないとか、  
なるべく自転車で移動したりとか」

「私たちにできることって、そのくらいなのかなあ」

「他にもあるわよ。じゃあ今度、教えてあげるわね」

「うん！」

そうやって歩く3人を、沈んでいく太陽が温かく照らしていました。





## 【あしがき】

気温が高い日が続いたり、短期間に激しい雨が降ったり、

今、地球に異変が起こっています。

私たちがただ受け身でいることが、

急激な気候の変動を引き起こしました。

環境問題に無関心な人はいても無関係な人はいません。

この絵本で紹介した取り組みはほんの一部です。

私たちが地球にずっと住み続けるために、

地球のためにできることを、今後もみなさんと一緒に

考えていきたいと思っています。

“私も変わる” “私も変わりたい”

そうやって仲間が増えていく未来であることを願って。

令和6年10月 鳥取県生活環境部脱炭素社会推進課

令和6年10月6日発行

発行 / 鳥取県生活環境部脱炭素社会推進課

作・絵 / 尾野 久子

この絵本は、令和6年度エネルギー構造高度化・転換理解促進事業費補助金により作成しました。

## 今すぐできる！地球のためにできる身近な取り組み



宅配サービスを  
一回で受け取ろう！

再配達の際にもエネルギーが使われているよ！配達日時の指定、宅配ボックス等を活用しよう！

年間のCO<sub>2</sub>削減量 7kg/人

年間72個(月6個程度)の宅配便を、全て1回で受け取った場合



食事を残さない  
ように食べよう！

食べ残しを廃棄するのもエネルギーが使われているんだよ！食べきれない量を注文したり買ったりしないようにしましょう！

年間のCO<sub>2</sub>削減量 54kg/人

家庭と外食の食品ロスがゼロになった場合



今持っている服を  
長く大切に着よう！

日本の衣類廃棄量は年間1人あたりなんと約15枚。服を作るのも廃棄するのもたくさんのエネルギーが使われているよ！

年間のCO<sub>2</sub>削減量 194kg/人

衣類の購入量を1/4程度にした場合



ゴミの分別を  
しっかりしよう！

分別をすればリサイクル率が上がり、ゴミも資源として活用できるよ！

年間のCO<sub>2</sub>削減量 4kg/人

家庭から出る容器包装プラスチックを全て分別してリサイクルした場合



歯みがき・手洗い  
水を大切にしよう！

上下水道の使用にも、浄水、供給、下水処理などの過程にエネルギーを使っているよ！

年間のCO<sub>2</sub>削減量 11kg/人

水使用量を約2割削減した場合



マイボトルを  
持ち歩こう！

ゴミを減らすことにつながるよ！

年間のCO<sub>2</sub>削減量 4kg/人

使い捨てのペットボトル(500ml)をステンレス製のマイボトルに置き換え、年間30回、5年利用した場合

※参考文献：環境省「デコ活アクション一覧」 / 「ゼロカーボンアクション30」 COOL CHOICE 未来のために、いま選ぼう。



トットリポーン!

はっこう  
発行

とっとりけん せいかつ かんぎょうぶ だつたん そ しゃかいすいしん か  
鳥取県生活環境部脱炭素社会推進課

